

協働事業提案に関する 検討結果報告会

協働事業提案に関する検討結果報告会の目的

9月30日【金】、協働事業提案に関する検討結果報告会が行われました。

この報告会は、大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例に基づいて、大和市協働推進会議からの提言に対して、大和市として提案された事業について検討した結果を説明することを目的に実施されています。

市長からの検討結果説明



市民が素案をつくるという条例を作るプロセス、内容とも全国から注目されている。協働事業も3年目で今後の展望が見えてくる年。1つの節目の年であり、分岐点。新しいものが生まれた後、どう育てていくかが課題であり、重要な時。大きく伸びていくのか、ジリ貧になっていくのか、行政が関わりすぎても、こしが引けても協働事業にならない。市民自治区の「地域の底力事業」の場合、地域に

格差が出ている。この格差こそエネルギーである。協働事業は、スタートは順調。今、議論が沸騰している。問題もあり、面白くなってきた。いろいろな課題が含まれていて、石が宝石になる可能性もあり、期待している。みなさんでこの協働事業を育てて欲しい。

代表あいさつ

今年度の15提案に対して、協働推進会議全員から感謝申し上げます。どれも市をより良くしようとする想いの提案。今後、協働事業サポートプロジェクト、協働を伝えようプロジェクト(PR)、声プロジェクトの3つのプロジェクトで協働事業のいっそうの推進を図っていく。市長に質問です。「声プロジェクト」の中で、市民の声が出てきた時に、市長はどう受け止めていかれるか？

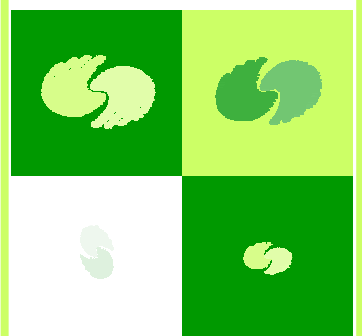


【市長】

直接の市民からの問題提起を聞くことによって、市民の多数の声は、どこにあるのか探る。市民の方に広く理解してもらう機会として、このプロセスを受け止めていきたい。参加によって多くの人の理解にむすびついたり、意見はできるだけ聞く姿勢を大切にしたい。

目次

協働事業提案に関する検討結果報告会の目的 市長からの検討結果説明 代表あいさつ	1
各提案の個別説明	2
参加者による質問・意見交換 まとめ	3・4



各提案についての個別説明【市民提案】

今年度の各提案事業について、市民活動課からコメントを添えて、市長の検討結果の説明が行われました。

提案事業名	市長の検討結果	報告部署	コメント
市役所関連施設の忘れ物傘の再利用(リユース)事業について	協働事業として推進	契約管財課 環境総務課 産業振興課	傘の対象を拡大していきたい
市民へのより良いスポーツ環境の提供	その他	スポーツ課	本市の実情にあった地域スポーツクラブについて情報収集
出張教室からひろがる温暖化を考える会	その他	環境総務課	今後とも提供提供と相談の場を設ける
つきみ野けやき並木再生に向けて	協働事業として検討を継続	土木管理課 土木総務課	「検討プロジェクト会議」の推移を見て
つま自然の森 緑育事業 緑を育て、緑で育つ	協働事業として検討を継続	水と緑課	提案者との話し合いを継続
カラオケとふれあいの場 「ミニディサロン」	協働事業として検討を継続	高齢者福祉課 障害福祉課	サービス内容を検討
空き店舗活用による子どもの居場所作り	協働事業として検討を継続	産業振興課 児童育成課	空き店舗があれば
新体操教室	その他	スポーツ課	本市の実情にあった地域スポーツクラブについて情報収集
高齢者の体力作り支援事業	協働事業として推進	高齢者福祉課	10月5日の開始に向けて調整中
まほろば子ども文芸大賞	その他	指導室	後援としての連携は可能

各提案についての個別説明【行政提案】

提案事業名	提案担当課	コメント
防犯マニュアル作成事業	安全なまちづくり課	防犯マニュアル作成チームを設置
道路環境美化ボランティアの里親制度(アダプト・プログラム)	土木管理課	それぞれの活動団体と協議(現在4団体)
ふくしの手 全員集合	福祉総務課	人材発掘、役割分担、Q&A、モデル事業を検討(現在4団体)
資源とごみの出し方変更に関する市民説明会協働開催事業	環境総務課	資料内容、プレゼンの方法、運営について協働して運営

参加者による質問・意見交換

協働推進会議の代表の進行により、当日の参加者である提案者、行政提案の応募者、市職員、市民の方々と質問・意見交換が行われました。

防犯マニュアル作成事業【安全なまちづくり課】行政提案

安全なまちづくり課



ハンドブック的な防犯マニュアルを考えている。最近では、防犯パトロールが盛んで、1,000件の犯罪が昨年と比べて減った。
地域の情報、人材、技術を活かした内容を検討したい。

防犯交流会(48団体・70名の参加)を開催して輪を広げた。現在、14団体、生活安全課【警察】、小学校とも連携。
第2回防犯交流会も企画中。

応募者【明るいまちづくりの会】

1年7ヶ月前から活動。現在、底力事業で活動中。地域の協力のもとに活動していきたい。1週間に2回のパトロールを実施。
この活動は市民の防犯意識の高揚を目的としている。曜日を決めたのは、会員の活動実態を把握するため。

応募者【南林間北自治会】

今年から防犯部の部長になった。マニュアル作成の会と思い、参加。

カラオケとふれあいの場「ミニディサロン」市民提案

提案者

自分の意見に対して、どうしたら良いのかの意見を欲しい。提案者と行政それぞれから提案するのが協働ではないか？

高齢者福祉課

提案者は、元気教室をすでに実施している。自身の持つカラオケスナックを提供することなので、協力できることは協力したいと考えている。
課を超えた情報提供について、今後考えていきたい。

まほろば子ども文芸大賞 市民提案

提案者

この事業自体は進めていきたいので、いろいろな面で協力をお願いしたい。
一つひとつの積み重ねが大切だと思う。

教育委員会指導室

学習場面の協働は、学校長がそれぞれ考えていくことになる。
学校教育では、夏休みの作品募集で支援していきたい。直接、学校にも熱意を伝えていきたい。

高齢者の体力作り支援事業 市民提案

提案者

敬愛会では、協働事業として行うことになった。専門家が不足していたので、効果を測定することが可能になった。また、リスクマネジメントを取り入れた計画が可能になった。
他施設の見学も出来た。さらに、精神面、生活面の数字にあらわれない面も充実できた。
我々と行政と、お互いの不十分な面を補うことができる。
毎週水曜日に10名の募集。
現在、8名の応募。10月6日からスタート。
協働は、互いの不十分な点を補う制度。協働を通じて、地域貢献していきたい。

高齢者福祉課

介護予防に、今後、力を入れていく時期に提案をもらった。
新しいメニューに取り組んでいきたい。
これから協働で進めていきたい。



参加者による質問・意見交換

参加者から質問

防犯マニュアルは出来たらどうなるのか？

市民活動団体に配布して活用したい。配布の方法も協働で考えたい。全戸配布は考えていない。【安全なまちづくり課】
犯罪発生場所なども広く公開して欲しい。

防犯マップの作り方は載せていきたい。地域の犯罪マップ作成に加わっているが、この活動を通じて危険な場所がわかってきた。地域のみなさんが地域のどこが危険か自分たちで確認してほしい。【安全なまちづくり課】

空き店舗活用による子どもの居場所作り 市民提案

提案者

目的を達成するために、それぞれの課で解決すべきことがある。

それぞれのハードルを越える時に、サポートしてくれる仕組みは必要だと思う。

提案は必要があってされているもの。子どもも健康が損なわれている。そのための場作り、場の提供は必要だと思う。提案し続けることが必要だと思う。

担当課が一生懸命に話を聞きに来てくれた。

産業振興課

しんちゃんハウスの活動先に伺い、話を聞いた。提案者を紹介するビデオも見た。やる気は理解しているが、市もお金がない。

商店街の負担もある。仲間意識の向上が必要。空き店舗を埋めるだけなら、お金だけでも足りる。まちづくりを商店街全体で取り組んでいく必要がある。



全国の空き店舗活用の事例 協働推進会議 林 委員



自分の資源を開いて、いかに活用することができるかが、課題。商店街にも可能性を秘めている。

商店街のスペース利用は、アートの活動などにも拡大していく例もある。

千葉県の佐倉市では、「ミニ佐倉」という子どもと商店街の活動の場がある。

フィリップモリスジャパンの助成事業の申請で、「居場所づくり」のテーマで行われている。

制度はあるが敷居が高い。商店街とも仲間になっていくような関係づくりが必要。少し時間がかかる。

島根県松江。障害のある方と、アートクラフトをやりながら社会の中に活躍の場を見出して活動をされている人々がいる。そして、そこに賛同する人ができて、活動が広がってきた。人が来なかった商店街に人が来るようになった。ドイツミュンヘン。。。1年おきに1度三週間。子どもたちがまちを運営するお金も発行している。

つるま自然の森 緑育事業 - 緑を育て、緑で育つ - 市民提案

提案者

協働事業の検討を継続とあるが、何を検討するというのか？

子どもたちを引っ張ってこることが難しいので、協働事業を提案した。新しい掘り起こしをしたかった。前に進める提案が何も無い。だめはいろいろだされたが。

子どもを引っ張ってこることについて、協力が得られない結果になっている。

「森・守・遊」ということをやっているが、1人1人の子どもとしか、つながれない。つながっていかない。

子どもを引っ張り出すよい方法を教えてください。

水と緑課

森の管理が担当。主役になる子どもの関わりが見えてこない。

子どもの方の担当課が見つからない。地元の方との話し合いも持ってもらい、地元からまず、はじめることを検討。

「緑育」という考え方はよいと思うが、主役となる子どもをどうフィールドに出していくかを考えていきたい。



まとめ 協働推進会議 小杉 委員



「原っぱ」を作ることが求められていると感じている。協働事業の推進委員が、3年目で壁に突き当たっている感じを持っている。とにかくやってみるという姿勢、集まってよい知恵を出し合うことが重要ではないか。新しい公共の創造...誰にとっても心地よい、気持ちの良い音楽が流れている協働事業を。車座になって話し合う、その場を設けることが必要。

市民活動センターに市職員は、一度勤務してもらいたい。大和市を良くしたいという想いが集まっている。このことを提案したい。